

安藤 るり子 さん

瑠璃窯(るりよう)
秋田市雄和椿川関田82
TEL.090-8614-1508

※ギャラリーの見学の際は事前連絡を



「染 ピアカップ」

「とりっこ箸置き」



「りんご灰釉花入」

ずっと手に
なじむ器を

て一度は断念。諦められず7年後、30歳で愛知県立窯業高等技術専門学校(現愛知県立名古屋高等技術専門学校窯業校)に進み、1年間基礎を学んだ。その後、岐阜県の陶芸家・近藤精宏氏の元で3年修業。秋田市新城の須恵沢窯でさらに腕を磨いて独立した。「多くの作家の方々の出会いによって視野が広がった。合わせる釉薬、焼き方によってさまざまな色や表情を生み出す陶芸は、私に変化や出会いの面白さを教えてくれるもの。この先も出会いと変化していくことを大切に成長したい」と話す。

秋田市雄和の古い民家を借り、2015年から工房兼ギャラリー「瑠璃窯」を開く安藤るり子さん。主にリンゴの木や松の灰を釉薬に使用した作品を作っている。「常に意識していることは、柔らかさを出すこと。例えば、持ったときに器がすっと手になじむ心地良さ、命あるものに触れているようなぬくもりや安心感。そんな柔らかな感覚を伝えられる作品を作りたい」と語る。

土を成形する際、あえて均一にせず、作品ごとに違いを出すことも特徴で、器は高さや厚み、表面のかすかな起伏などが微妙に異なる。鳥型の箸置きも、鳥の顔の角度や表情一つ一つに個性がある。「見て手に持つて、お気に入りの1点を見つけてもらえたらうれしいですね」

陶芸に心引かれたのは中学3年の頃。旅先の函館で陶芸家の工房を訪れ、自然の中で暮らしながら器を焼く姿に感動を覚えた。都内の短大を卒業後、帰郷して秋田市雄和の幸炎窯で2年間陶芸を習うものの陶芸家として生きる道の厳しさを考え